

「KONICA II シリーズについて」

会員番号0764 長谷川 幸也

KONICA IIの時代背景

KONICA IIは、老舗のカメラメーカーの小西六写真工業(株)により、1951年～1957年にかけて販売された、35mmの距離計連動型カメラである。これは、KONICA I型から始まりIII型までの一連のシリーズ「クラシック・コニカ」の中のひとつである。1951年～1953年にかけてはスプリングカメラから二眼レフの最盛期に入る時期であった。また1954年～1955年にかけて、フィルム事情の好転などにより35mmカメラが主流となり、高性能化と低価格競争が激化し、中小メカは脱落していった。その中で「小西六」は、品質管理においてデミング賞を受賞するなどその技術が高く評価されて、発展していった。ストロボの普及もちょうどこの時期に当たる。

KONICA II型の特徴

KONICA II型がコレクションの対象となるのではないかと考えたのは、高品質でバリエーションも適当にあり、一般的に入手も比較的容易な機種が多いことなどである。

- II型の前後には、I型とIII型という兄弟シリーズもあり、全部で20機種ほどある。
- II型には希少機種もいくつかある。やや品薄のもの：IIA型、IIBm型、「MIOJ」刻印入りのII型など
- ごく希少なもの：IIF型、レンズ交換式II型
- II型発売当初、35mm距離計連動の国産レンズシャッターカメラは、このほかにはマミヤ35しかなかった。
- 曲線を使ったエプロンのデザインに特徴がある。
- 当時としては、他の同様なカメラに比べ極めて高価なカメラであり、保有することに誇りを持つカメラであった。

KONICA IIの魅力

- ノブ巻上方式、セルフコッキングではない、ストラップ用アイレットがないなどクラシックカメラの雰囲気色が濃く残っている。
- レンズはヘキササー、ヘキサノンなど定評の



写真1 KONICA II型

ある優秀なものである。ヘキササーは3群4枚構成テッサタイプ、ヘキサノンは3群5枚構成のより高級なレンズであった(左図)。

- 補色式ファインダー、これは現在でも見やすいファインダーの一つである。
- 工作精度、品質が良く十分に使用に耐えられる。品質に関しては、戦後間もなく、1950年に米国の品質管理の権威の、W. E. Deming博士の来日を期に、(財)日本科学技術連盟がデミング賞を制定して、1951年から賞を授与し始めたことが、日本の品質管理の成長に大きな影響を与えた。「小西六」も社内の品質に対する意識とその実績が評価され、1954年に受賞している。
- 販売台数が、II型全体で約11万9千台あり、その品質の良さから故障で使えなくなったカメラは少なく中古カメラ市場には十分な数があり、また機構的にもクラシックカメラ入門機として適している。

KONICA IIシリーズの機種

KONICA II型(写真1)

- 発売年: 1951年
- 販売台数: 43,000台
- 発売価格: 35,900円
- レンズ: ヘキサノン 50mm F2.8 ダブルヘリコイド式沈胴
- シャッター: コニラピッドS T、B、1～1/500 Time露出機構付
- 特記事項: 前面に24×36の刻印、この刻

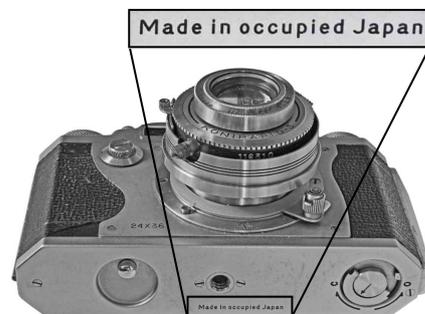


写真2 "MIOJ"刻印のあるKONICA II型

印はII型とIIA型のみにある。またII型の中にMade in Occupied Japan (MIOJ)の刻印のあるものが存在する(写真2)。II型は1951年12月の発売であり、先号(110号)の高島会長の研究会報告(1)にある様に1949年12月5日のSCAPIN 2061「輸出品のマーキング」で実質的にMIOJ刻印をしなくても良いことになっているが、対米輸出をにらんで廃止しなかったのかも知れない。店頭でII型を見掛けたら、底蓋にこの刻印があるものが見付かるかもしれない。

KONICA IIB型(写真3、4)

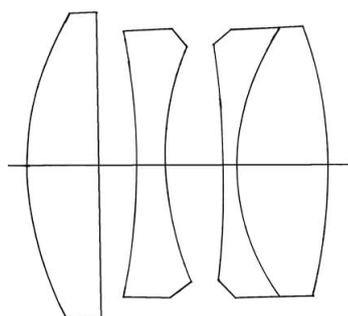
- 発売年: 1955年
- 販売台数: F2.8付18,000台、F3.5付23,000台
- 発売価格: (F2.8)31,500円、(F3.5)27,000円
- レンズ: ヘキササー 50mm F2.8 またはヘキササー 50mm F3.5、II型と同じダブルヘリコイド式沈胴



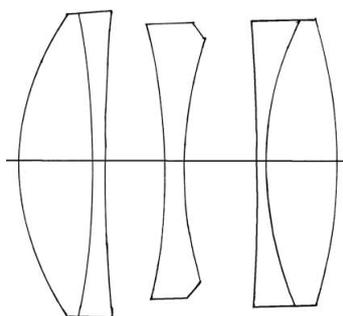
写真3 KONICA IIB型 F3.5 ヘキササー付



写真4 KONICA IIB型 F2.8 ヘキササー付



ヘキササー(テッサタイプ)
50mm F2.8、F3.5



ヘキサノン
50mm F2.8



写真5 KONICA IIA型 F2.0 ヘキサノン付



写真6 KONICA IIB-m型



写真7 レンズ交換式KONICA II型

- シャッター: コニラピッドS B、1~1/500
- 特記事項: II型の普及バージョン機、Time露出を省略し、カメラ前面のT、I切り替えダイヤルがあった位置にKonicaロゴとBという文字の入った丸い円盤が貼られている。

KONICA IIA型(写真5)

- 発売年: 1956年
- 販売台数: 15,000台
- 発売価格: 35,000円
- レンズ: ヘキサノン 48mm F2.0、ダブルヘリコイド式沈胴ではない。
- シャッター: コニラピッドT、B、1~1/500、MFXのフルシンクロ、Time露出が復活。
- 特記事項: II型のバージョンアップ機。軍艦部の上部にIIAの刻印がある。

KONICA IIB-m型(写真6)

- 発売年: 1957年
- 販売台数: 20,000台
- 発売価格: 22,500円
- レンズ: ヘキサ 45mm F3.5、ダブルヘリコイド式沈胴ではない。
- シャッター: セイコーシャMX B、1~1/500、M及びX接点付
- 特記事項: IIA型の普及型、レンズが45mmなのは、当時の流行がスナップ写真だったので、準広角レンズを採用したと思われる。これにもIIBと同じように、切り替えダイヤル位置にIIBmと入った円盤が貼ってある。

KONICA IIF型

- 発売年: 1956年
- 販売台数: 2,400台
- 発売価格: 32,000円
- レンズ: ヘキサノン 50mm F2.8
- シャッター: コニラピッドMFXT、B、1~1/500

- 特記事項: 「カメラ毎日」1956年11月号の広告欄に、通販会社「イエナ精光」が広告を出している。一般に積極的に宣伝した形跡はない。直後に発表されたIIA型とはレンズ違い、またII型に対しシャッターのみ異なるだけである。軍艦部の刻印はIIのみでIIFの表示はない。

レンズ交換式KONICA II型(写真7)

- 発表年: 1954年11月発表
- 発売価格: 未発売(試作のみ)?
- レンズ: ヘキサノン 50mm F1.9、ヘキサノン 85mm F3.5
- シャッター: コニラピッドS T、B、1~1/500 T露出機構付
- 特記事項: 「カメラ年鑑」1955年版に写真とともに比較的詳細に披露されている。コダックレチナにみられるような前玉交換型レンズで、50mmと85mmとがある。シャッターはビハインド式であった。結局発売には至らなかった筈だが中古カメラ市場で見掛けたことがある。市場にあるものは極めて少ないであろう(写真は「1955年版カメラ年鑑-日本カメラ社」から)。

主なアクセサリと付属品

専用のアクセサリは、あまり多くなく、現在の撮影にも使用可能なものとしては下記のようなものである。

- フード
角型: 初期の白色φ32mm I型時代から使われた(写真8)、黒色φ36mm(写真9)
丸型: 白色φ32mm(写真10)
どのフードも作りは大変良く、きれいなものが多い。

キャップと薄型フィルター(写真11)

専用フードは、ネジ止めのカブセ型のため薄型のフィルターでないと装着できないので、ぜひ入手しておきたい。現行の市販品には、薄型フィルターは無い。

- オートアップ
専用品が比較的入手しやすい。
- カメラケース、フードケース
ブラウンの上質な皮革で作られており、現在でも使用可能なものが多い。カメラケースは、II型すべてに互換性がある。
- シャッターボタンの飾りネジ
シャッターのネジ穴に、セルフタイマーやリリースを使用しない時にネジ穴をふさぐために、飾りネジがついていたが、今になってみると欠落している個体が多く、入手する場合には、気を付けて確認することが望ましい。なくても撮影上は何も支障はないが、コレクションとしては、ついているのが望ましい。



写真11 レンズキャップと薄型フィルター

→左から順に

- 写真8 角形フード32mm
- 写真9 角形フード36mm
- 写真10 丸形フード32mm



【参考文献】

- 広告で見る「国産カメラの歴史」朝日新聞社
- カメラ年鑑 1955年版 日本カメラ社
- 「写して楽しむクラシックカメラ」Part 3 伊藤二良著 写真工業
- Camera Collectors' News」2000年10月号松田三一春氏発表

- 小西六カメラの歴史」クラシックカメラ専科No. 10 朝日ソノラマ
- 「二百万人の35ミリカメラ新書」研光社
- 「カメラの物語館」神戸カメラミュージアム
- 「アサヒカメラ」朝日新聞社
- 「カメラ毎日」毎日新聞社